

私たちは一条の希望の光を見たようだった。加害の歴史を刻むことがいかに難しいか。この出来事はわたしたちが暮らす日本社会の縮図とも言える。

東京大空襲74年 朝鮮人犠牲者は、なぜ、そこに、いたのか

梁 大隆

今回、わたしたちは、平形千恵子さんたちにお世話になり、9月8日(日)の午前中、高津観音寺で朗読劇『骨は叫ぶ・96年目の記憶』を発表させていただく(別記参照)。詩、絵、朝鮮人留学生たちの会話など、いろんなオリジナルの場面も登場する予定だ。ご縁を大事にし、恥ずかしくないものにしたいとみな意気込んでいる。

(ながた・こうぞう／武蔵大学社会学部教授)

去る3月16日、『東京大空襲74周年朝鮮人犠牲者追悼会』が、東京朝鮮人強制連行真相調査団(以下調査団)の主催で行なわれた。2007年から始まったこの追悼会は、今年でやっと13回目になる。

それ以前、東京大空襲朝鮮人犠牲者問題は語られてこなかったばかりか歴史の闇に埋められるところであった。

ご承知の通り、東京大空襲とは、1945年3月10日未明、マリアナ基地群から発進したアメリカ軍325機が焼夷弾1665トン東京の下町地域に投下し、僅か2時間半で10万人以上の罪のない命を奪い、負傷者約40万人、焼失家屋約26万8000戸、被災者は100万人にのぼるといいう大惨事で、瞬間的大虐殺として人類史上、世界に例をみない傷ましいものである。

アメリカ国防総省戦略アナリスト元顧問として核兵器指揮統制分野を担当したダニエル・エルスバークは、「アメリカが一日のうちに行なった大虐殺で歴史上一番目は東京大空襲、二番目は広島、三番目は長崎で

ある。』(『世界』2010年1月号49頁)と述べている。

民間人を含む無差別虐殺としてのこの傷ましい戦争の大惨事は、体験者などにより語り継がれ、現在もなお、諸問題を抱える中、その解決にむけた取り組みも行なわれている。しかし、はたして、約10万人の犠牲者はそのすべてが日本人であったのだろうか。

この大惨事は、2000年代中盤まで、60余年の長い間、朝鮮人とは無縁のものと思われ、ほどなく朝鮮人犠牲者の問題は風化し歴史の闇に永遠に埋められるところであった。

調査団は、去る2005年より、この問題に本格的に着手し、長い歴史の壁と幾多の困難を乗り越え、様々な貴重な研究と実績を積み重ねてきた。

日本による植民地支配下において、多くの朝鮮人は生活苦等により、渡日を余儀なくされ、第2次大戦末期、特に国家総動員法(1938年4月)以降、極度の労働力不足に陥った日本は、朝鮮国内から多くの青

「関東大震災96年 慰霊祭・学習会」

9月8日(日) 会場 高津観音寺
(千葉県八千代市高津1347 最寄り駅は京成本線八千代台 047-450-2753)
第1部 学習会 本堂にて
10時30分～11時 慰霊の歩み
11時～11時45分
朗読劇『骨は叫ぶ・96年前の記憶』
(武蔵大学社会学部永田ゼミ3年生による)
11時45分～12時 質疑
第2部 慰霊祭 境内にて 13時～14時
第3部 フィールドワーク(巡回) 14時30分
なお、京成本線の大和田駅下車の「大和田シード」では、9月7日～10日、特別展を開催
お問い合わせ
平形千恵子 047-438-1757



(東京都慰霊堂 納骨堂にある朝鮮人の遺骨)

司会：佐藤正夫(日本人)、 鄭和瑛(朝鮮人)

年達を「募集」、
「斡旋」、徴用(徴
兵)の名のもと、
連行し彼らをそ
の穴埋めの労働
力として利用し
た。

連行された朝
鮮人は主に軍需
工場で働かされ、
渡日した朝鮮人
も多くは下町で
部落を形成し生
活していた。

「朝鮮銀行
京城総裁調査課」が発行した《内支那に
在住した半島人の活動状況に関する調査》
(1942年)は、前年末時点において、概略
的な数字として、本所・深川2万名、荒川・
城東3万名と記されている。

当時、東京の下町一帯には、芝浦、砂町、
深川、豊洲、船堀、石川等いくつもの軍需
工場やその宿舍などがあり、そこには数多
くの朝鮮人がいた。

又、国立公文書館が所収する「昭和20年
諸達書類編冊(左翼内鮮)特別高等課」の「内
地在住朝鮮人戦災者(1945年9月25日)」
によれば、「東京在住朝鮮人9万7632人

中、戦災者は4万1300人(42.3%)で
ある。」と記されている。

当時の「帝都防空本部情報147号」に
よれば、「米軍は軍関連企業、軍需工場を集
中のに狙った。軍関連の企業や工場は本所
区(現墨田区)と深川区・城東区(現江東区)
に集中していた。最も被害が多かったこの
地域だけで、全死傷者の8割が出た」とある。
連行された朝鮮人が主に軍需工場で部落
を形成していたことを考慮すれば、東京大
空襲での朝鮮人被害は日本人より高率と見
るのが妥当であろう。

これらの事を勘案し総合的に分析した結
果、東京大空襲における朝鮮人の死者は、
少なくとも1万人(10万余名の犠牲者中10%)
を軽く越すと見られると推定され、現在で
は、東京大空襲戦災資料センター等、日本
の学界においてもほぼこの見解である。

しかし、東京大空襲による朝鮮人犠牲者
の存在や、彼らが、どこで、どのようにに
息途絶えたか、そして、彼らの遺骨は今ど
のように放置されているのか、また、遺族
達は、この事実を知らされているのか等に
ついては、まったくの研究がなされていな
かった。

調査団がこの歴史の闇に埋もれた朝鮮人
犠牲者問題を調べ始めた契機は2005年

10月のある偶然の出来事に端を発する。

東京から南に287 km離れた八丈島の、
朝鮮人強制連行実態を調査した調査団は偶
然、ある朝日新聞記者から東京大空襲時死
亡した朝鮮人3名の名前が記されたメモを
入手した。

死亡者の名前があるので、彼らの名簿も
あるという事であろうと判断した調査団は、
国立中央図書館等、日本の有名図書館を調
べた。

そして、調査団はついに、東京千代田の日
本教育会館図書館にて、1974年3月美
濃部亮吉知事時代に作成した《戦後30年東
京都慰霊堂に眠る戦災死者》名簿を見つけ
た。

調査団はこの名簿の中から、創氏改名は
されていないも、朝鮮人の名前としか見られ
ない名前50個を探した。

そんな中、本国においても、犠牲者とそ
の遺族が確認された。

調査団は2009年2月、南の「日帝強
占下強制動員被害真相糾明委員会」の協力
によって、犠牲者、故黄洙達さん(死亡当時
24歳)の息子さんである黄秉煥さんと、故金
鳳石さん(死亡当時32歳)の娘金琴蘭さんを
東京に招待し、追悼会を開催した。

北では2009年8月、「朝鮮・日本軍性

奴隷及強制連行被害者問題対策委員会」を通じ、平安北道江界郡出身の、故宋正浩（1930～2009）さんの証言をもらえた。

また、2018年と2019年の追悼会では、体験者、犠牲者のご遺族の在日朝鮮人の方から体験談を聞くことができた。

今年の追悼会で発言した罹災当時10歳だった金榮春さん（葛飾区、83歳）は、東京大空襲で2人の妹を亡くした話をし、重要な事は、なぜそこに朝鮮人がいたのかをはつきりと記す事だと指摘、「空襲被害者には何の救済もなく、補償もいまだに成立していない。行政責任者は、この集会への追悼の意さえも表していない。私の『恨』は未だ消えていない」と語った。

朝鮮人が、日本の植民地政策により、異国の地で、アメリカの空爆の犠牲になった事実、そして、長い歳月を乗り越え、その事実を掘り起こす事、それは、とりもなおさず、未完成、未清算の日本の過去に直結し、忌まわしい歴史を清算する事に繋がる。

事実を明らかにするために過去にさかのぼること、そしてそのことは、それぞれの時代に存在した人と一体になり、空間を共有することである。

そうしてこそ、その時々犠牲になった人たちの思いを一つに出来ることだと思う。

「遺骨は生きている」……。そして、遺骨は知っている。なぜ、異国の地で、希望ある朝鮮の青年たちが犠牲になったのかを。

日本政府はその責任から逃れる事はできないだろう。（リヤン・デリユン／東京朝鮮人強制連行真相調査団事務局長）

「植民地歴史博物館」と日本をつなぐ会

——3年半余の活動を踏まえ新しい「会」へ

矢野 秀喜

1 つなぐ会の3年半の活動とその到達点

私たちは、「植民地歴史博物館」と日本をつなぐ会（以下、つなぐ会）を2015年11月に結成しました。

主要な活動目標として3点を掲げました
①博物館建設賛同金の募金、②資料の寄贈・寄託の呼びかけ、③植民地歴史博物館と日本の平和博物館・資料館とのネットワークづくり。

以来、3年半余。その活動の結果として、第1に、805人、12団体から総額1044万7千円の建設賛同金をいただきました。これは当初の目標金額500万円の2倍です。第2に、靖国神社関連の資料、日清戦争を描いた錦絵、皇太子時代の大正天皇訪韓時の写真など植民地支配に関わる

貴重な資料や、植民地支配清算をめざす運動の資料などを寄贈いただきました。そして第3に、いくつかの平和博物館・資料館、日本の植民地主義清算をめざす市民運動、大学ゼミなどと植民地歴史博物館との連携、むすびつきが進展しました。つなぐ会は植民地歴史博物館建設に少なからず寄与したと言えます。

つなぐ会は、上記のように所期の目標はほぼ達成することができました。これにより、つなぐ会の役割は終了したと総括し、解散することにしました。

2 植民地歴史博物館開館後の状況

昨年8月29日に博物館は開館。開館式には、韓日市民約400人が出席しました。文在寅大統領も祝辞を寄せてくれました。「植民地歴史博物館開館おめでとうござい